

北の文脈ニュース〈号外版〉

郷土文学館に指定管理者制度が導入されました



[展示室入口には、石坂洋次郎原作「青い山脈」の映画ポスター（当時の物）を設置]

平成 29 年 4 月 1 日（土）から、指定管理者（TRC・アップルウェーブ・弘前ペンクラブ共同事業体）による管理・運営に移行しました。より郷土に根差した文学館を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

郷土文学館は、オープン初日 4 月 1 日と 2 日の両日を無料開放日とし、より多くの皆様にご覧いただけるよう、図書館と共催でオープニングイベントを開催致しました。文学館からは、弘前ペンクラブ制作のクリアファイルの配布や、アップルウェーブの生放送等があり、2 日間で 400 名近くの方に来館していただき、賑わいました。

弘前市立郷土文学館の指定管理を受けて

弘前ペンクラブ会長 斎藤 三千政

本年 4 月 1 日より、当ペンクラブが弘前市立郷土文学館の指定管理者の業務を開始した。郷土文学館の新スタッフによる日常業務がスムーズに行われるよう、われわれも総力を結集してサポートしていきたい。また今回の指定管理者が TRC、FM アップルウェーブとの三者共同事業体であるため、その協力体制を強化し指定管理の基本方針である「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)＝人のつながりが生む力」の実現を目指し、市民のために力を尽くしたい。

そのために新しい視点からの事業も考えている。たとえば、いま世界から注目されている日本のアニメ(漫画)は弘前市出身の「少年倶楽部」の名編集長と高く評価された加藤謙一ときわめて深い関係にある。すなわち戦前の漫画「のらくろ」、戦後の手塚治虫を世に送り出したのが加藤謙一だ。まさに弘前は「漫画の原点」であり、「アニメの聖地」ではないか。そのことを全国にアピールし「文学都市・弘前」の知名度をさらに高めていきたい所存である。

《郷土文学館 無料開放日 第二弾のお知らせです！》

7 月 1 日（土）、2 日（日）郷土文学館開館記念日として無料開放いたします

（平成 2 年 7 月 1 日開館）

開館時間は、午前 9：00 から午後 5：00 までです。（入館は午後 4：30 まで）
たくさんのご来館をお待ちしております。

平成 29 年度 スポット企画展 (4 月 20 日～6 月 30 日)

生誕 130 年 葛西善蔵 —石坂洋次郎が魅せられた作家—

本展は、弘前市出身の作家・葛西善蔵の生誕 130 年という節目にあたり、石坂洋次郎との交流を中心とした葛西善蔵を紹介するものです。

葛西善蔵は〈私小説の神様〉とまで言われてその神髄を究め、大正期を代表する作家です。若き日の石坂洋次郎は葛西善蔵に心酔し、大正 12 年に鎌倉建長寺内宝珠院に葛西善蔵を訪ねます。石坂は強烈な印象と衝撃を受け、以来昭和 3 年に葛西が死去するまでその交流は続きました。

本展の見所は葛西善蔵が愛用していた万年筆です。この万年筆は葛西善蔵の長男亮三から、友人である作家の平井信作（浪岡町出身）が譲り受けました。当館の貴重な資料の一つです。是非ご覧ください。



今回のスポット企画展
(7 月 1 日～8 月 31 日) は
石坂洋次郎
『エッセイに見る素顔』
を予定しています。

平成 29 年度 第 1 回 北の文脈文学講座開催

—生誕 130 年 葛西善蔵—

平成 29 年 5 月 20 日 (土) 講師: 櫛引洋一 (企画研究専門官)

今年度も、5 月から「北の文脈文学講座」が開講しました。この講座は、展示資料をより深く楽しみながら鑑賞してもらうために、毎月第 3 土曜日に開催しています。平成 24 年から始まった文学講座は、今年度で 6 年目を迎えました。

5 月の講座では、石坂洋次郎や葛西善蔵の作品から、石坂の目から見た葛西の姿や、葛西の小説に向かう姿勢を紐解きました。

2017 年 講座日程

(14:00～15:00)

次回: 6 月 17 日 (土)

7 月 15 日 (土)

8 月 19 日 (土)

(記念講演)

9 月 16 日 (土)

10 月 22 日 (日)

11 月 18 日 (土)

12 月 16 日 (土)



編集後記

この度、指定管理者制度導入に伴い郷土文学館の管理運営にあたるスタッフも替わりました。未熟ながら、皆が同じ方向を目指して力を結集することで、良い結果が出せるよう努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。
〈スタッフ一同〉

「明日」へと向かう「空間」に

企画研究専門官 櫛引洋一

2 月 12 日、東大阪の司馬遼太郎記念館を訪ねた。21 回目の「菜の花忌」当日であった。司馬の蔵書 2 万余冊で埋め尽くされた三層吹き抜け 11 メートルの書架に囲まれた薄暗い空間に、白のステンドグラスを通してやわらかな光が差し込んでいた。展示室の設計者・安藤忠雄は、「行く先の見えない戦後日本の闇に、先人の偉業を通してこぼれおちてくるかすかな光を見出しながら、人々に希望を与えてきた」司馬遼太郎の精神世界を、この空間で表したかったと説明する（「創造の原点」）。

さて、弘前市立郷土文学館は、弘前市民の熱い期待のもとに平成 2 年 7 月 1 日に開館した。以来 26 年、全国有数の「文学都市・弘前」を発信すべく、資料の収集・保存、調査・研究という文学館の地盤が先人の手によってしっかりと築かれ、展示・文学講座などを通して地域の方々に紹介してきた。

先日送られてきた『日本近代文学館』第 277 号に、坂上弘館理事長が「研究型文学館」から「貢献型文学館」への志向のことを書いておられたが、当館もまた、この度の指定管理者制度導入を機に、これまでの活動の一層の充実を図るとともに、地域の方々と交流する「貢献型」の活力あふれる事業を展開したいと考えている。文学研究者・愛好者に資するのみならず、「郷土の先人」の偉業を通して一般の方々や若年層も心奮わせ、「明日」へと向かう「空間」となるように。

北の文脈ニュース号外版 発行: 平成 29 年 6 月 15 日 編集・発行: 弘前市立郷土文学館

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 TEL: 0172-37-5505

URL: <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/bungakukan/>